

震災復興、べっぴん富士

公演実行委員会ニュース

2016年9月20日発行 Vol.1

発行：震災復興べっぴん 前進座『怒る富士』公演実行委員会事務局
実行委員長／中村 光 顧問／長野 泰経
〒874-0935 別府市駅前町4-19サンリラ駅前201別府市民劇場内 Tel0977-21-6608
(事務局／甲斐・中村)

今年5月に静岡県御殿場で同劇を鑑賞した中村事務局長は、御殿場はこの史実の地。地元ですつゝ語り継がれてきた英雄の話をたくさんや子どもたちが舞台に集中していく光景が印象的だったと話した。別府は、4月に熊本大震災で大きな被害が発生。この公演は、舞台を楽ししながらも自然災害に備える市民の気持ちを高める上で大きな意味を持つだろう。ぜひ多くの市民に参加し観てもらいたい。

江戸時代の富士山の宝永噴火。その復興に命を賭けた人がいた。史実を徹底的に調べ描いた真実のものがたり。

台風10号接近の予報が出た9月4日、野口ふれあい交流センターにて前進座『怒る富士』公演実行委員会が開催された。前進座からは『怒る富士』の主役の嵐圭史さん、制作年約30人が出席する中、来年の寺田裕子さんが参加。作品の紹介、呼びかけや公演計画や準備について話合った。

この物語は、富士山の復興に尽くした関東郡代伊奈半左衛門と村人の史実に基づいている。作者の新田次郎氏は劇化原書に寄せて、『怒る富士』を書いた動機は伊奈半左衛門といいう関東郡代に惚れ込んだからだ。彼は民衆を愛することは自分の正義を守ることであつた。結局彼は腰を切って死んだのだが、身代にいた事実に、私は新時代に鮮な驚きを感じ、このよくな人物が現代にこそ必要ではないか、そんな気を持ちでこの小説を書いた」と記している。

「別府復興人合言葉」合言葉に、前進座の舞台「怒る富士」

主役の

火曜日
2016年(平成28年)9月6日

午後 晴 (朝刊)

2016年(平成28年)9月6日

午後 晴 (朝刊)